

サブドレン他水処理施設の運用状況等

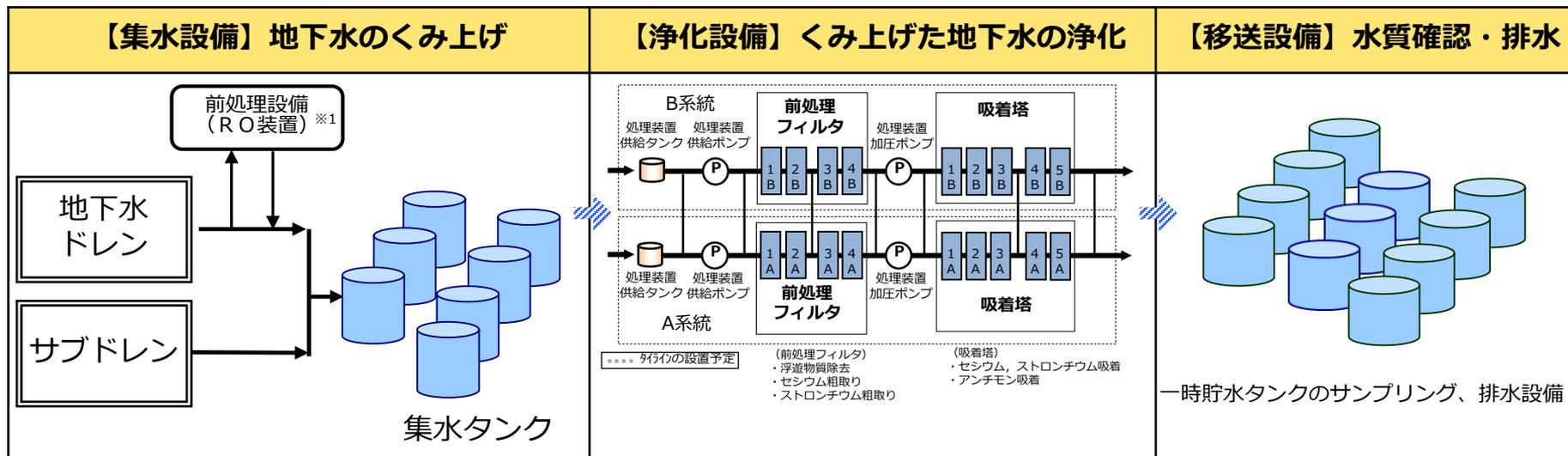
2020年7月2日

TEPCO

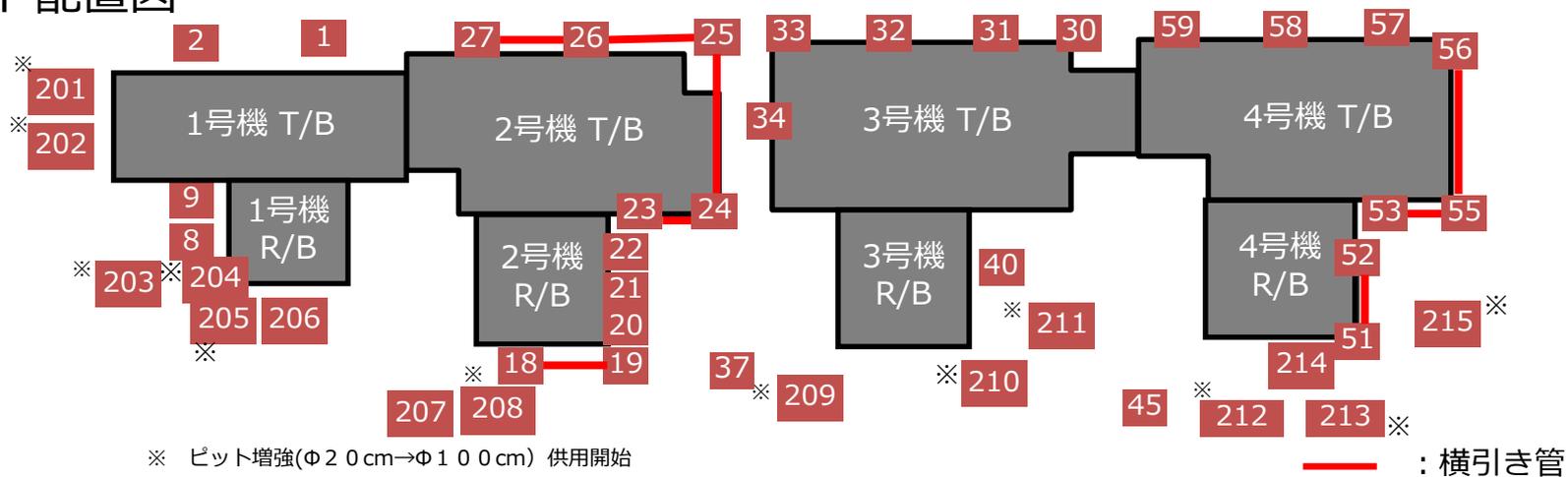
東京電力ホールディングス株式会社

1-1. サブドレン他水処理施設の概要

・設備構成



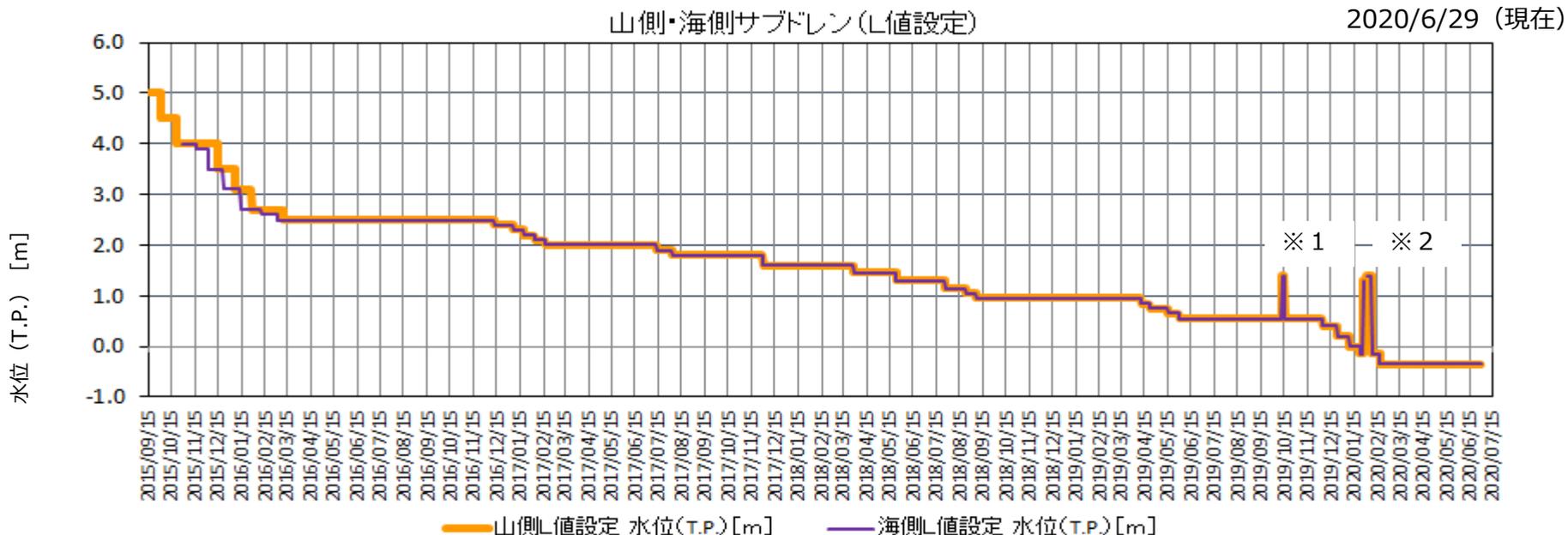
・ピット配置図



1-2. サブドレンの運転状況（24時間運転）

- サブドレンピットNo.30,37,57を復旧し、2018年12月26日より運転開始。
- 山側サブドレンL値をT.P.+5,064mmから稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年9月17日～、L値設定：2020年2月18日～T.P.-350mmで稼働中。
- 海側サブドレンL値をT.P.+4,064mmから稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年10月30日～、L値設定：2020年2月18日～T.P.-350mmで稼働中。
- 2020年1月以降の運転状況
 - ・1月27日から、大雨に備えて基本のL値をT.P.+1300mmとした。
 - ・1月29日に2号機T/B北東エリアの水位上昇によりLCO逸脱となり、サブドレンの汲み上げを全停した。
 - ・2月3日に全ピットのL値をT.P.+1400mm以上として、汲み上げ再開。2月7日に水位設定値を元に戻した（L値:T.P.-150mm）。
- 1/2号機排気筒周辺サブドレン
 - ・地盤改良外側ピットである、No.205とNo.208（1.2号機排気筒解体工事との干渉が解消されたため、12/6稼働再開）は、2020年2月18日からL値をT.P.+250mmに変更。地盤改良内側ピットである、No.206とNo.207は、2020年2月18日からL値をT.P.-200mmに変更。
 - ・以降、現在までL値は変更せず稼働しているが、各ピットのトリチウム濃度を監視しながら、他ピット同様に稼働時間を調整することにより、サブドレン集水タンクのトリチウム濃度を管理しながら運用している状況。

※上記を踏まえ、後述に掲載していた資料『1/2号機排気筒周辺トリチウムの濃度上昇への対応』については省略する。



※1 台風19号対応として10月12～15日の間、一時的に全ピットのL値をT.P.1400mmに変更した。

※2 1月の大雨に備えて基本のL値をT.P.1300mmとし、2月7日に水位設定値を元に戻した（L値:T.P.-0.15 mm）

1-3. 至近の排水実績

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、2020年6月29日までに1,299回目の排水を完了。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L)）を満足している。

排水日		6/25	6/26	6/27	6/28	6/29
一時貯水タンクNo.		J	K	L	A	C
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24
	Cs-134	ND(0.71)	ND(0.71)	ND(0.68)	ND(0.74)	ND(0.56)
	Cs-137	ND(0.58)	ND(0.53)	ND(0.46)	ND(0.63)	ND(0.68)
	全β	ND(2.1)	ND(1.7)	ND(1.8)	ND(1.6)	ND(1.8)
	H-3	970	1,000	990	1,000	1,000
排水量 (m ³)		434	448	479	460	454
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22
	Cs-134	ND(5.1)	ND(5.3)	ND(5.5)	ND(10)	4.9
	Cs-137	83	77	70	83	74
	全β	—	—	—	—	220
	H-3	1,100	1,100	1,100	1,200	1,100

* NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

* 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を1 Bq/Lに下げて実施。

* 浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。